

一般廃棄物処理基本計画に係る目標の 進捗状況等について

1.基本的な考え方

“杜の都の資源”を次の世代へ 持続可能な資源循環都市をめざして

限りある資源の大切さが認識され、無駄なく循環的に利活用されることで、杜の都の良好な環境を維持し、住みやすさを感じることができるまちを目指して、世代や国籍の違い、障害の有無なども含め、誰もがものを大切に使い、資源とごみの分別などの3Rに取り組めるよう、市民や事業者など多様な主体と協働して、循環経済への移行に向けた意識醸成・行動変容を推進するとともに、安全で安定的な廃棄物処理体制を確保します。



基本的な考え方を踏まえ、以下4つの基本目標を設定。

基本目標	設定の考え方
①ごみ総量	発生抑制と再使用の推進の状況を把握する指標として
②最終処分量	環境負荷の低減に向け埋立地の延命化を図る指標として
③1人1日当たりの家庭ごみ排出量	市民にとって身近な取組指標として
④家庭ごみに占める資源物の割合	

2.基本目標について

①ごみ総量

(単位:トン、人)

	令和元年度 (基準年度)	令和6年度 (実績)	令和7年度		令和7年度 (中間目標)	令和12年度 (最終目標)
			(速報値)	前年度比		
ごみ総量	373,373	335,867	330,249	▲1.7%	350,000	330,000
生活ごみ	234,235	216,337	211,569	▲2.2%	220,000	210,000
家庭ごみ	184,794	166,754	162,892	▲2.3%	172,300	158,000
缶・びん・ペットボトル等	20,621	20,731	20,150	▲2.8%	21,000	22,000
プラスチック資源	12,616	13,932	13,765	▲1.2%	12,500	14,000
紙類定期回収	11,347	10,589	10,677	0.8%	10,000	12,000
粗大ごみ等	4,857	4,330	4,085	▲5.7%	4,200	4,000
事業ごみ	139,138	119,530	118,680	▲0.7%	130,000	120,000
推計人口(10/1現在)	1,090,263	1,096,168	1,096,951	0.1%	1,098,000	1,097,000

- 令和7年度のごみ総量は、前年度比1.7%減の330,249トンとなった。内訳では、生活ごみが前年度比で2.2%、事業ごみが0.7%減少している。

2.基本目標について

②最終処分量

	令和元年度 (基準年度)	令和6年度 (実績)	令和7年度 (速報値)	令和7年度 (中間目標)	令和12年度 (最終目標)
最終処分量 (トン)	52,000	42,444	43,250	49,000	40,000

- 令和7年度に実施した中間改定で最終目標を46,000トンから40,000トンに見直した。
- 最終処分量は、前年度に比べて1.9%増となった。

③1人1日当たりの家庭ごみ排出量

	令和元年度 (基準年度)	令和6年度 (実績)	令和7年度 (速報値)	令和7年度 (中間目標)	令和12年度 (最終目標)
1人1日当たりの 家庭ごみ排出量 (グラム)	463	417	407	430	400

- 1人1日当たりの家庭ごみ排出量は407グラムとなり、前年度に比べて10グラム減少した。

2.基本目標について

④家庭ごみに占める資源物の割合

(単位:%)

	令和元年度 (基準年度)	令和6年度 (実績)	令和7年度		令和7年度 (中間目標)	令和12年度 (最終目標)
			(速報値)	前年度比		
資源物(製品プラ含む)	(45.7)	45.5	45.7	0.2pt	35.0	30.0
(製品プラ除く)	42.5	(43.0)	(43.4)	0.4pt		
紙類	23.7	23.3	24.2	0.9pt		
プラスチック	9.8	11.1	9.5	▲1.6pt		
容器包装 製品※ ₂	(3.2)	2.5	2.3	▲0.2pt		
布類	7.4	7.5	8.3	0.8pt	—	—
缶・びん等	1.6	1.1	1.4	0.3pt	—	—
生ごみ	32.5	29.7	28.9	▲0.8pt	—	—
その他	21.8	24.8	25.4	0.6pt	—	—

※1 毎月1回、清掃工場において家庭ごみ袋を抽出し開封調査した結果による(数値は年間平均値)

※2 製品プラは令和5年度より資源として回収しているため、「資源物(製品プラ含む)」の令和元年度の数値は参考値

- 令和7年度の家庭ごみに占める資源物の割合(製品プラスチックを含む)は45.7%となっている。内訳では、紙類、布類がやや増加し、缶・びん等は横ばい、プラスチック資源や生ごみなどは減少している。
- 令和7年度実績は中間目標値と乖離が大きい。最終目標値の達成に向けて、引き続き一層の分別徹底に取り組む必要がある。

3.家庭ごみ等排出実態調査について

家庭からの食品ロス量を把握するため、令和7年10月に5地区(各区1か所)を対象に、家庭ごみ袋の開封調査を実施した。また、併せてごみの組成変化を把握するため、プラスチック資源及び事業ごみ(可燃)についても開封調査を実施した

①生ごみに占める食品ロスの割合

(単位:%)

	令和元年度 (基準年度)	令和6年度	令和7年度	
		(実績)	(速報値)	前年度比
食品ロス	34.5	24.7	24.2	▲0.5pt
全く手付かず(残存100%)	17.0	8.7	10.1	1.4pt
ほとんど手付かず(50%以上)	4.5	1.3	2.0	0.7pt
一定程度手付かず(50%未満)	1.9	1.2	1.9	0.7pt
食べ残し等	11.1	13.5	10.2	▲3.3pt
調理くず	62.7	70.4	73.3	2.9pt
その他(茶殻等)	2.8	4.9	2.5	▲2.4pt

- 令和7年度の生ごみに占める食品ロスの割合は24.2%となり、前年度に比べて0.5ポイント減少した。
- 基準年度である令和元年度と比べると大きく減少している。

3.家庭ごみ等排出実態調査について

②プラスチック資源の組成

(単位:%)

		令和元年度	令和6年度	令和7年度	
				(速報値)	前年度比
プラスチック製容器包装	食用容器	29.1	27.5	29.5	2.0pt
	菓子袋等	24.9	24.9	24.7	▲0.2pt
	シャンプー・洗剤等容器	5.3	14.3	16.1	1.8pt
	飲料用容器	3.2	3.6	2.8	▲0.8pt
	発泡トレイ(白色)	2.3	1.6	1.1	▲0.5pt
	トレイ(白色以外、プラスチック製トレイ等)	3.4	1.7	1.3	▲0.4pt
	トレイのラップ、タバコの包装等	9.4	2.4	3.0	0.6pt
	保護材・緩衝材等	1.4	1.4	2.0	0.6pt
	レジ袋	2.6	1.2	1.9	0.7pt
	その他PET製ボトル類(食用油等)	1.2	0.2	0.1	▲0.1pt
製品プラスチック		5.1	13.6	9.3	▲4.3pt
仙台市指定袋		3.3	3.7	3.3	▲0.4pt
ペットボトル		1.5	0.7	1.4	0.7pt
プラスチック以外のもの(生ごみ、金属等)		7.3	3.2	3.5	0.3pt

- 令和6年度と比べて令和7年度は、重量のある「製品プラスチック」が4.3ポイント減少した。
- 食用容器やシャンプー・洗剤容器など一部の容器包装が増加している

3.家庭ごみ等排出実態調査について

③事業ごみ(可燃)の組成

(単位:%)

	令和元年度	令和6年度	令和7年度	
			(速報値)	前年度比
厨芥類	25.2	14.2	11.2	▲3.0 pt
リサイクル可能な紙類	19.5	18.0	13.0	▲5.0 pt
プラスチック	13.9	21.2	34.0	12.8pt
ペットボトル	0.5	0.3	1.4	1.1pt
金属類	1.9	1.0	0.9	▲0.1 pt
その他	39.0	45.3	39.5	▲5.8 pt

- 令和7年度は令和6年度と比較して、プラスチックの割合が12.8ポイント増加している。
- リサイクル可能な紙類については、前年度より5.0ポイント減少している。
- 厨芥類についても3.0ポイント減少しており、11.2%となっている。